

# 伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第四主日礼拝のしおり

## 2022年7月3日

### 前奏

#### 招きのことば：詩編66編5-9節

来て、神の御業を仰げ、人の子らになされた恐るべき御業を。

神は海を変えて乾いた地とされた。人は大河であったところを歩いて渡った。それゆえ、我らは神を喜び祝った。

神はとこしえに力強く支配し 御目は国々を見渡す。背く者は驕ることを許されない。〔セラ 諸国の民よ、我らの神を祝し 賛美の歌声を響かせよ。

神は我らの魂に命を得させてくださる。我らの足がよろめくのを許されない。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

### み言葉の部

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン。**

### 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

神様、私たちの名前が、天に記されていることを感謝いたします。どうか、私たちだけではなく、私たちの大切に思っている方々も、主イエス様のお与えくださる罪の赦しと永遠のいのちを信じて受け取ってくださるよう、み言葉をもって導いてください。この一週間、イエス様がともにいてくださって私たちの信仰を新たにし続け、励まし続けてくださいます。希望と喜びをもって、人々とともに幸せをつくっていくことができますように、導いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、まだ緊張感を保たなければなりません。その中でも すべて御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

### 使徒書朗読：ガラテヤの信徒への手紙6章7-16節

思い違いをしてはいけません。神は、人から侮られることはありません。人は、自分の蒔いたものを、また刈り取ることになるのです。自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、霊に蒔く者は、霊から永遠の命を刈り取ります。たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることとなります。ですから、今、時のある間に、すべての人に対して、特に信仰によって家族になった人々に対して、善を行いましょう。このとおり、わたしは今こんなに大きな字で、自分の手であなたがたに書いています。肉において人からよく思われたがっている者たちが、ただキリストの十字架のゆえに迫害されたくないばかりに、あなたがたに無理やり割礼を受けさせようとしています。割礼を受けている者自身、実は律法を守っていませんが、あなたがたの肉について誇りたいために、あなたがたにも割礼を望んでいます。しかし、このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほか、誇るものが決してあってはなりません。この十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。割礼の有無は問題ではなく、大切なのは、新しく創造されることです。このような原理に従って生きていく人の上に、つまり、神のイスラエルの上に平和と憐れみがあるように。

### 福音書朗読：ルカによる福音書10章1-12、17-20節

その後、主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもりのすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。そして、彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のため

に働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。財布も袋も履物も持って行くな。途中でだれにも挨拶をするな。どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる。その家に泊まって、そこで出される物を食べ、また飲みなさい。働く者が報酬を受けるのは当然だからである。家から家へと渡り歩くな。どこかの町に入り、迎え入れられたら、出される物を食べ、その町の病人をいやし、また、『神の国はあなたがたに近づいた』と言いなさい。しかし、町に入っても、迎え入れられなければ、広場に出てこう言いなさい。『足についたこの町の埃さえも払い落として、あなたがたに返す。しかし、神の国が近づいたことを知れ』と。言うておくが、かの日には、その町よりまだソドムの方が軽い罰で済む。」 |

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します。」 イエスは言われた。「わたしは、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見ていた。蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を、わたしはあなたがたに授けた。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つない。しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではならない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

### 讚美歌 242 番

- 1 「悩む者よ、我に来よ」と 恵みの主は招きたもう、  
重荷負いて 喘ぐ友よ、主のみもとに 来たり憩え。
- 2 「悩む者よ、我に来よ」と 光の主は 招きたもう、  
暗き道に 迷う友よ、主のみもとに 急ぎ帰れ。
- 3 「悩む者よ、我に来よ」と 救いの主は 招きたもう、  
罪を悔いて嘆く友よ、主の赦しの御声 聞けや。

アーメン

### 説教：「収穫の主に願いなさい」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様は、あなたが自己中心な歩みからイエス様の方に向きをかえて歩むように導いてくださいます。放っておくと私たちは普通自分のことばかり考えて、自分を守ること、自分がもてなされること、自分が心地よく生きていくことだけを求めて歩みます。これは一見、仕方のない自然なことと見られますが、実は自分中心の思いの虜になっていて、自己中心な考えに支配されているのです。イエス様は自覚と覚悟をもってあなたの傍らに来てくださり、あなたがイエス様に心を向けることができるようにしてくださいます。そして、自己中心の罪の支配から

解き放たれて、これまで見えなかった真実を見るようになります。皆さんもそんな経験をなさっていることでしょうか。そして、できれば自分の大切な人にも、罪を赦してくださるイエス様にぜひ出会ってほしい、と一度は祈られたことがあったのではないのでしょうか。

伝道することは素晴らしいことです。ルカによる福音書は罪を得させる悔い改めが、イエス様のお名前によってあらゆる国に宣べ伝えられる、と教えています。まず私たちが悔い改めて、イエス様の方に向き直り、そして、私たちは罪を赦してくださるイエス様を人々に宣べ伝えていきます。これが伝道です。では、私たちがイエス様のことを人々にお分かちするとき、何が重要なのでしょうか。私たちが大切に思っている人に、イエス様が傍らに来てくださっていることを紹介するときに、心に留めておく重要なことは何でしょうか。

それが今日の聖書のテーマです。イエス様は十二人のお弟子たちのほかに七十二人をお選びになって、これからご自分がお訪ねになる町や村に二人ずつ先に遣わされました。イエス様が彼らに何を教えてくださったのでしょうか。読み進めてみましょう。

最初は働き人としての自覚です。伝道は立派な人がする、私が出る幕ではない、とっていませんか。イエス様がまず言われたことは、収穫は多いが働き手が少ない、ということです。イエス様がこれから訪ねてくださる町や村に行ってイエス様が来られますよ、とお話をする働き手が少ないということです。伝道はイエス様の働きです。イエス様がイエス様を信じる方々を導いてくださるので、収穫は多いのです。私たちはその実を刈り取る働き手です。しかし自分が働き手だと自覚する人が少ないようです。今日読まれたところの前の章に、十二人のお弟子たちがイエス様からあらゆる権威を授けられて村から村に遣わされています。十二弟子は、神の国は近づいた、と宣べ伝えて、立派な働きをして帰ってきました。今日の個所の七十二人は、その十二人のお弟子とは別に選ばれました。ですから、私は十二人のお弟子ではないから、働き手ではないだろう、と思ったかもしれません。自分は自分の人生を歩もう、人にイエス様のことを紹介するのはもっと立派な人がふさわしい、と思い、自分が任命された働き手である自覚や意識がなかったかもしれません。それで、イエス様は彼らに対してまず、収穫は多いが働き手は少ない、と言われました。そして、働き手を送ってくださるように祈りなさい、とおっしゃって、続いてすぐに、わたしはあなたを遣わす、行きなさい、と言われました。みんなが十二人のお弟子のようになりません。しかし、私たちは皆、イエス様をあらゆる人々に宣べ伝え、紹介する働き手とされています。私たちの大切な方々にイエス様のことをお知らせするのを人任せにせず、私たち自身の使命と意識しましょう。この自覚を持つように、イエス様は教えておられます。

次にイエス様が教えられたことは、覚悟です。イエス様は私たちがイエス様のことを紹介する働きは必ずしも簡単なこと、安全なこと、心地よいことではないことを覚悟するようにおっしゃいます。それは、ちょうど狼の群れの中に、子羊を送りこむようなものですから、一瞬でかみ殺されてしまいそうです。それが現実です。財布も袋も履物ももっていないように、と言

われました。財布は自分の力や自分の楽観的な予想です。袋は人からみかえりをもらったら入れておこうとする期待です。履物は自由に思うまま歩き話せば何とかなる、人からめんどろがられたりしてこわくなったら逃げたらい、という作戦です。私たちは普通、人から何と思われるかがとても気になります。また一定のプライドを保っていたいものです。ですから、働き手である自覚をもって、なかなかいろんな困難を予想して覚悟を持つことができません。変に思われて相手にされなかったらどうしよう、心配されているような忠告を受けたらどうしよう、たくさんのリスクを負わなければならないように感じて押しつぶされるよりは、適当に焦点をはずして、狼の群れと仲良く心地よく歩んで行こうと思います。イエス様は七十二人の弟子たちに覚悟がありますか、と問うています。あなたがたは行って、自分の力に頼らず、神の国が、つまりイエス様が近づいておられます、ということをお話し、罪の赦される安心を伝える覚悟はありますか。相手の幸せを祈り、出してくださる好意を感謝して受け取り、受け止められなくても恨んだり復讐したりしないで、別れる時にも神の国が近づいています、と祝福を祈る覚悟がありますか、と語っておられます。

最期にイエス様が教えられたことは、あなたの名前が天に書き記されている、ということです。七十二人はイエス様の「行きなさい」ということばに遣わされて、働き手として町や村をどきどきしながらめぐって来ました。意外なことに、七十二人はとても驚き、喜んで帰って来ました。イエス様のお名前を使うと悪霊も従ったからです。イエス様は、それはそうです、わたしはあなたがたにあらゆる力に打ち勝つ権威を授けていましたから、とお答えになりました。お遣わしになったときに権威も授けてくださっていました。心細い思いをして遣わされた七十二人の人々は、イエス様のお名前、という権威を与えられていたのです。それはイエス様が狼の群れの中に、イエス様のお名前と言う権威を授けた小羊を送られていたということです。行きなさい、とおっしゃったイエス様は、そこに共に行ってくださっていました。弟子たちはイエス様のお働きを一番近いところで見せていただいたのです。あなたを罪の中から救い出し、イエス様の恵みの中に移し入れてくださったイエス様は、あなたを用いてあなたの大切な方々にも奇跡を起こしてください。そしてイエス様が実をならせてくださり、私たちは収穫を刈り取るための働き手として用いられます。ルカによる福音書はそうにしてイエス様の名前によってすべての国に、罪の赦しを得させる悔い改めが宣べ伝えられると約束しています。

けれどもイエス様にとって、あなたの名前が天に書き記されていることが一番大切なことです。あなたが自覚し、覚悟をもって出ていき、その結果、イエス様、あなたは正しかった、わたしはたくさんの人にあなたのことを宣べ伝えました、と成果を喜ぶことがあっても、あなたのがんばりとその成果によってあなたの名前が天に書き記されているわけではありません。そうではなくてむしろ、あなたの名前が天に書き記されているからこそ、その結果、自覚を促され、覚悟をもって出ていくように導かれ、そこで時にはうれしい経験もするということです。イエス様は私たちのために十字架にかかって死んでくださり、自分中心のために、すべての危険におびえ、自分の殻の中に閉じこもっていた私たちに平安を与えてくださいました。そしてイエス

様は復活によって私たちに新しいいのちを与えてくださいました。新しい目、新しい心で自分のためではなく、人々の幸せと救いのために生きるようにしてくださいました。イエス様の死といのちにあずかる洗礼によって、私たちの名前が天に書き記されました。この光栄な喜びという原因によって、その結果私たちは押し出されて私たちの大切な方々にイエス様の恵みを分かち合います。

イエス様は、七十二人を二人ずつペアにして遣わされました。天に名前の記されていることを共に喜び、共に収穫のために働き手を送ってくださいと自覚して祈り、共に覚悟と信頼をもって遣わされるためです。あなたもこの一週間、信仰の友とすべてを分かち合いながら、共に祈り、共に遣わされ、主イエス様の罪の赦しの福音をあなたの大切な方々にお分かちしましょう。

そして、彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださいるように、収穫の主に願いなさい。ルカによる福音書 10 章 2 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

## 聖餐の部

### 主の食卓を囲み 讚美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い 主の復活をたたえ 主のみ国を待ち望み 主にあって我らは生きる。※

### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

### 設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン

だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

### 配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

#### 赦しの宣言

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。 **アーメン**

### 主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあつて我らは歩む。 ※

### 讃美歌 333 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 主よ我をば とらえたまえ、さらばわが霊(たま)は 解き放たれん  
わが刃(やいば)を 砕きたまえ、さらばわが仇(あだ)に 打ち勝つを得ん。
- 2 わが心は 定かならず、吹く風のごとく 絶えず変わる  
主よ、御手もて ひかせたまえ さらば直き道 踏みゆくを得ん。
- 3 わが力は 弱く乏(とも)し、暗きにさまよい 道に悩む  
天(あま)つ風を 送りましたまえ さらば愛の火は 内にぞ 燃えん。
- 4 わがすべては 主のものなり、主はわが喜び、また幸(さち)なり  
主よ、みたまを 満たしたまえ さらば永遠(とこしえ)の 安きを得ん。 **アーメン**

### 頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ。 **アーメン**

#### 祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

#### 後奏